

住生活産業総合情報誌  
[ハウジングトリビューン]

# Housing Tribune

Today for Tomorrow

<http://www.sohjusha.co.jp>

2025.12.26

No.23・24

第2・第4金曜日発行

716

## 2025年の 重大ニュース

新築縮小時代、住宅産業が向かうのは…

- ・住宅行政が大きく転換
- ・住宅ローン金利が上昇局面に
- ・超省エネ化が急拡大
- ・サーキュラーエコノミーが住宅業界で本格化
- ・都市部の住宅価格高騰が加速
- ・建設業の人手不足、倒産増加で深刻に
- ・広がる空き家のビジネス化
- ・大手国内メーカーの住宅戦略に変化
- ・海外事業で明暗を分ける
- ・トップ交代が相次ぐ 業界再編の兆しも
- ・太陽光発電が必須、自家消費の時代に
- ・“共創”で中大規模木造推進の動きが相次ぐ



### ■ Topics & News

「みらいエコ住宅」で  
GX志向型や長期優良・ZEHに補助  
住宅分野にも「標準労務費」導入

空間の価値を変える  
スケルトン階段

### ■ Top Interview

現場発泡ウレタンで差別化戦略  
BASF INOAC ポリウレタン  
代表取締役社長 諸橋 雅彦 氏

住友林業グループ  
DXで住宅事業者支援を加速 **上**  
「構造エクспレス」など基盤サービスを強化



# 3D建築CADの最新版を発売

## 審査機関のハウスプラス住宅保証と協業

### 4号特例縮小に対応、審査省力化を実現

福井コンピュータアーキテクトは、

3D建築CADシステム「ARCHITREND ZERO Ver.12」を2025年10月に発売した。

建設業界における生産性向上や働き方改革への対応として、確認申請業務を支援する機能などを多数搭載している。

ARCHITREND ZEROは、

主に木造住宅の設計、確認申請業務、構造計算などに使用されるCADソフト。有料CADソフトの中では全国で半数以上のシェアを占め、約1万4000社が継続して利用している。無料CADソフトとしてはJWCADなどもあるが、専用CADの強みとして、メーカー製品の建具やキッチンなどの情報をそのままCADに落とし込める点があり、断熱材・サッシの熱貫流率などの情報も含まれており、省エネ計算や法規チェックがボタン一つで行える利便性がある。

最新版の開発にあたり、特に注力し

たのは、確認審査の省力化に向け、申請業務の質を高める出力支援機能の強化だ。2025年4月の改正建築基準法施行により、4号特例縮小がスタートし、2階建て木造戸建てなどの建築確認手続きが見直された。2階建て以上、または延床面積200㎡超の木造平屋建てなどが該当する「新2号建築物」は、確認申請の際に構造関係規定等の図書の提出が必要となった。これに伴い、建築確認申請図書の作成における負担が増大している。

確認検査業務を行うハウスプラス住

宅保証のオペレーション統括本部審査部の江夏慎一氏は「申請側も審査側

も十分に慣れていない状況で、図書の不整合などが多発し、審査時間が大幅に延びている。従来30分程度で済んでいた審査が1時間から1時間半かかるようになり、その積み重ねで全体の業務が滞っている。特に構造図との整合性確認や省エネ関連の新しいチェック項目が増えたことが時間増加の要因として挙げられる」と話す。

こうした現状を踏まえ、福井コンピュータアーキテクトは、「ARCHITREND ZERO Ver.12」の

開発にあたり、ハウスプラス住宅保証

の協力のもと、審査プロセスの省力化に取り組んだ。審査機関へのヒアリングを通じて時間を要する項目を抽出し、申請側が負担なく必要な情報を出力できる仕組みを構築した。

具体的には、木造壁量計算の一括出力機能を拡張し、平面図と壁量計算結果の整合性チェックを自動化。すべてのチェックを通過するとスタンプが自動押印され、申請前の確認作業を軽減する。

例えば、平面図と壁量計算の整合性が確保された状態から、平面図に柱を

審査機関が求める仕様表に対応



**ハウスプラス住宅保証株式会社**

作図における記載箇所を明確化、重複記述をなくし整合性UP

## 壁量計算にて計算書一括出力拡張



計算書出力時に最終チェック、図書精度向上で手戻りのない図面に

また、採光・換気・排煙計算の一覽表機能も拡充し、審査機関の要望に

沿った仕様表作成機能も新たに追加した。こうした出力支援機能強化により申請図作成業務の約10%効率化と、1棟あたり30分から1時間程度の審査時間削減を目指している。

の申請手続きをよりスムーズにする。  
仕様基準の「省エネ設備」を一括自動  
配置する機能も新たに追加し、データ  
入力省力化も図った。

福井コンピュータアーキテクト開発

待望されていた」と話す。

2026年4月に開始予定のBIM

な審査が始まる予定だ。

情報も補完できるようになる。

説明する。

助金の活用も可能だ。



# つくろう、 つなごう、 街の笑顔。

つくろう。

住みたいを叶える、安心して心地よい家を。  
たしかな木造技術で、やさしくあたたかな街を。  
人と人、地域みんなのつながりを。  
ポラステクノシティで、  
皆さまとともにつづいていきます。



POLUS TECHNO CITY  
ポラステクノシティ

木造建築の魅力を発信する情報拠点



詳しくはこちら >>>>



住まい価値創造企業  
**POLUS**  
ポラスグループ

ポラス株式会社 埼玉県越谷市南越谷1-21-2 TEL048-989-9151

